

小松一彦メモリアルコンサート 中央大学管弦楽団 特別演奏会

小松一彦



斎藤秀雄氏に師事。桐朋学園大学指揮科卒業後、NHK交響楽団指揮研究員、旧西独ライン・ドイツ歌劇場副指揮者を経て、1978年N響を指揮し、正式デビュー。その後、関西フィルハーモニー管弦楽団常任指揮者、札幌交響楽団専属指揮者を歴任するなど、国内の主要オーケストラと共に演じた。さらに、活躍の舞台を海外へと広げ、プラハ交響楽団の常任客演指揮者を始め、サンクトペテルブルグ・フィルハーモニー交響楽団、ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団、ノルウェーのベルゲン・フィルハーモニー管弦楽団などに客演した。コンサートのみならず放送、録音の分野でも活躍、その多忙を極める演奏活動の合間に、後進やアマチュア演奏家の指導にも熱心にあたった。

中央大学管弦楽団とは桐朋学園大学卒業直後から関わりを持ち、前述のライン・ドイツ歌劇場から帰国直後の1976年1月、第14回定期演奏会で初めて同オーケストラを指揮。以来、2009年12月の第62回定期演奏会まで音楽監督兼名誉指揮者としておよそ35年の長きにわたり指揮を続けた。その間、約50回の定期演奏会やさまざまなコンサートでタクトを取り、届けの大学オーケストラへと導いた。2013年3月30日、肺炎のため逝去。



中央大学管弦楽団

中央大学創立70周年にあたる1955年、その記念音楽会での演奏を行うために臨時編成のオーケストラが結成された。それを母体として中央大学管弦楽団が誕生。60年近い歴史を持ち、現在は部員130名を擁するオーケストラサークルへと発展した。また、1,000人を超えるOB・OGからは、演奏家、音楽マネージャー、オーケストラ・スタッフ、楽器製作など多彩な人材を輩出している。

1962年12月に第1回定期演奏会を開催。以来、大高義人、増井信貴、小松一彦、佐藤寿一氏らの指揮により演奏会を重ね、その回数は70を数える。

定期演奏会のほかにも、学内の音楽系サークルとのジョイント・コンサートや団員有志によるアンサンブル・コンサートも定期的かつ継続的に行っている。また、毎年行われる入学式、卒業式はもちろん、大学創立周年記念事業、1978年の多摩移転式典での記念演奏など学内行事にも欠かせない存在となっている。1984年にはマニラ・シンガポール、1998年にはニューヨークでの海外公演も好評を博した。

今回、現役大学生はもちろん、世代を超えたOB・OGが一堂に会するコンサートが実現する。

profile

佐藤寿一



指揮を小松一彦、高階正光、前田幸市郎の各氏に師事。これまでに、山形交響楽団、ニューフィルハーモニー・オーケストラ千葉、仙台フィルハーモニー管弦楽団、東京都交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、ハンガリーのサヴァリア交響楽団、韓国ソウルのカンナム交響楽団など国内外のオーケストラを指揮。2013年5月にはカーネギーホールで障がい者を含む日本からの合唱団を率いて「第9」その他を演奏。現地の合唱団・オーケストラとの共演は、満席の聴衆のスタンディングオベーションを巻き起こす成功を収めた。また、指揮だけにとどまらず、オペラの演出を手がけるなど新たな分野へと活動を拡げている。

また、浦和フィルハーモニー管弦楽団音楽監督を始めとして多くの市民オーケストラや合唱団の指導にもあたっており、中央大学管弦楽団との関係は、およそ四半世紀におよぶ。1990年には全日本学生オーケストラ大会でヒンデミット「画家マチス」を指揮し審査員の絶賛を博した。現在では、常任指揮者として年2回の定期演奏会はもちろん、入学式、卒業式での記念演奏など、同オーケストラの大部分の活動に関わっている。

1998年から2004年まで山形交響楽団指揮者を務めた。宮城学院女子大学音楽科非常勤講師。

新宿文化センター

東京都新宿区新宿 6-14-1 TEL: 03-3350-1141



アクセスガイド

- ① 都営大江戸線・東京メトロ副都心線『東新宿駅』A3出口より徒歩5分
- ② 東京メトロ丸の内線・副都心線『新宿三丁目駅』E1出口より徒歩7分
- ③ 都営新宿線『新宿三丁目駅』C7出口より徒歩10分
- ④ JR・小田急線・京王線『新宿駅』東口より徒歩15分
- ⑤ 西武新宿線『西武新宿駅』正面口より徒歩15分